

第3学年1組 道徳科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 主題名及び教材名

主題名「本当の友達」

B10【友情、信頼】友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。

教材名「なかよしだから」（東京書籍）

2 主題設定の理由

内容項目の解釈

「友情、信頼」の友情とは、友達同士の間にも生まれる情愛であり、信頼とは、相手のことを理解し信じて頼ることである。友達は、家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係は、子どもにとって最も重要な人間関係の1つである。友達関係は対等な関係であり、共に学習したり遊んだりして互いに影響し合って構築され、高め合う関係になる。友達と信頼関係を築くためには、友達を疑わず信じて相手の立場になって相手のためになることを考える心をお互いがもたなければならない。

B10「友情、信頼」については、低学年で「友達と仲よくし、助け合うこと」について学習してきた。これを受けて本主題では、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについて学習していく。このことは、高学年での「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」の学習へと発展していく。

児童の実態

本学級の子どもたちは、休み時間や放課後に仲良く遊び、係活動も友達と協力してできている。しかし、友達が間違っただけをしようとしているのに迎合してしまったり、相手のことを思った注意ができなかったりする。また、友達から注意されても、受け入れたり認めたりすることができず、トラブルになることも多い。これは、友達のことを思って伝えたり、受け入れたりする友達関係の素晴らしさに気付くことができていないからであると考えられる。

そこで、友達と理解し合い、信頼し、助け合うことができるこの期に本主題を取り上げる。そして、お互いに相手の間違いを伝え、受け入れることができる友達関係を築いていこうとする態度を育てたい。

このことは、本当の友達の価値を感得させるとともに、自己の生き方を見つめる子どもを育てる上でも意義深い。

教材の分析

本教材「なかよしだから」は、主人公「ぼく」が本当の友達について考える話である。「ぼく」は、うっかり算数の宿題を忘れてしまい、宿題の答えを仲よしの実家に教えてもらおうとする。しかし、期待に反して「なかよしだから、なお教えられないよ。」と断られ、その言動に腹を立てる。その後、宿題が間に合った「ぼく」に対して、実が、にっこり笑いかけると、「ぼく」はそっぽをむく。家に帰った「ぼく」は、実が断った理由や本当の友達とは何かについて考え込む。実の思いやその後の2人がどのような会話をしたのかを考えさせることを通して、相手のことを思って伝えたりその思いを受け入れたりすることが大切であるという友情の価値をとらえさせるのに適した教材である。

3 本時のねらい

本当の友達とは、友達が間違っているとき、相手のことを考えて伝えたりその思いを受け入れたりして、互いによりよくなろうとする関係であると分かり、友達と信頼関係を築こうとする態度を育てる。

4 本時学習の工夫点

【つかむ段階】	【見出す段階】	【見つめる段階】
事前アンケートの結果をもとに、自分にとっての友達の条件を確認し、友達から注意された経験があることを想起させ、本時学習のめあてをつかませる。	「広げる問い」で、実がなぜ仲よしなのに断ったのか、考え込んだときの「ぼく」の気持ちを考えさせた後、「深める問い①」で、実の思いが分かった「ぼく」の次の日の会話を考えさせ、本当の友達についての価値にせまら、「深める問い②」で、「ぼく」と実の関係から、間違いを伝えたり、受け入れたりする友達関係について考えさせ、本当の友達についての価値理解を深めさせる。	相手のことを思って伝えたり、それを受け入れたりする本当の友達関係について、自分との関わりで考えさせ、これまでの自分を振り返らせ、これからの自分の展望をもたせる。

5 計画

事前（課外）	道徳科（本時）	事後（課外）
アンケートにより、自分の中の友達の定義を整理し、友達から注意された経験を想起させる。	教材「なかよしだから」を通して、本当の友達について学習させる。	日常生活において、友達を思って伝えたり、それを受け入れたりしたことを紹介し合わせる。

6 展開

段階	学習活動と内容	教師の支援
つかむ	<p>1 事前アンケートの結果をもとに、自分にとって友達とはどんな存在なのかを確認し、本時のめあてについて話し合う。 (友達とは) (友達から注意されたとき)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・優しく何でも話せる。 ・困ったときに助けてくれる。 ・注意してくれる。 </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・嫌な気持ちになる。 ・怒る。 </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> 本当の友達とは、どのような友達だろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題意識をもたせるために、事前アンケートをもとに友達とはどんな人かを考えさせ、友達から注意された経験を想起させ、価値の方向性をつかませる。 ○ 本時学習のめあてをつかませるために、注意する友達は本当の友達かを問う。
見出す	<p>2 教材「なかよしだから」をもとに、本当の友達についての価値理解を深める。</p> <p>(1) 教材を読み、場面の状況を把握し、仲のよい友達に、宿題の答えを教えてほしいと頼んだとき、期待に反して断られた「ぼく」の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーブの投げ方を教えたから宿題の答えを教えてよ。 ・仲良しなのに教えてくれないなんてひどすぎる。 ・友達が困っているんだから助けてよ。 <p>(2) 家に帰って、実がなぜ仲よしなのに断ったのか考え込んだ「ぼく」の気持ちを話し合い、自分の考えを広げる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「ぼく」は、家に帰って、実が「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言ったことが気になり考え込みました。どのようなことに気付いたのでしょうか。 【広げる問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答えをうつつすことは、ずるだからかな。 ・自分の力で解かないと「ぼく」のためにならないからかな。 ・実は、「ぼく」のことを思って言ったのかな。 </div> <p>(3) 「ぼく」と実の友達関係について考え、本当の友達についての価値理解を深める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>その次の日、実際に会った「ぼく」は、実とどんなことを話したのでしょうか。 【深める問い①】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>実 「まだ、怒ってるの。」 ぼく 「怒ってないよ。昨日はごめんね。」 実 「なぜ、教えなかったか分かったの。」 ぼく 「うん。ぼくのために教えなかったんだね。」 実 「うん。君なら自分の力でできると信じてたよ。」 ぼく 「ぼくのことを思ってくれて本当にありがとう。」</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>2人は、本当の友達と言えるのでしょうか。本当の友達とは、どんな友達でしょうか。 【深める問い②】</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 本当の友達とは、友達のことを思って伝えたり、それを受け入れたりする関係 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ぼく」は、この時点では実の気持ちに気付いていないことをとらえさせるために、期待に反して断られた時の「ぼく」の気持ちを共感的に考えさせる。 <p>【広げる問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実が、仲よしだからこそ「ぼく」のために断ったことに気付かせるために、「ぼく」が家に帰って考え込んで気付いたことを共感的に問い、吹き出しに表現させる。 <p>【深める問い①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ぼく」と実の友達関係をとらえさせるために、次の日の2人の会話を仮定的に問い、想像したことを役割演技(実役：教師「ぼく」役：児童)を通して表現させる。 <p>【深める問い②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本当の友達についての価値をとらえさせるために、「ぼく」と実の関係から本当の友達とはどのような友達かを分析的に問う。
見つめる	<p>3 本時で明らかにした本当の友達についての価値をもとに、自己の生き方についての考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは、友達から注意をされた時、嫌な気持ちになって腹を立てていた。これからは、友達から注意されたときは自分のために言ってくれたと思って受け入れていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分との関わりで考えを深め、実践意欲をもたせるために、本時学習をする前の自分を振り返らせ、価値理解したことをもとにこれからの自分について考えさせる。

友だちとは
やさしい
おもしろい

↑
注意してくれる
いやなきもち
おこる

本当の友だちとは、どのような友だちか
考えよう。

なかよしだから

「ありがとう」
「ごめんね」
「ぼくのため」

「答えを教えてください。」
「どうして...? きみは
ぼくとなかよしだろう。」

ぼく



なんで教えてくれないの
なかよしの
しもどすけるのに

「本当の友だち
友だちのことを思って伝える」

「わーっ」と宿題はちがう
からだ。
友だちだからがんばって
と画いたからだ。
ぼくのために
言わなかったんだ。

実さん

「なかよしだから、
なお教えられないよ。」

主な発問

○つかむ

友達とは、どんな人でしょうか。
「注意してくれる友達って、本当に友達なのかな。」

本当の友達とは、どのような友達か考えよう。

○見出す

美さんに「なかよしだから、なお教えられないよ。」
と言われたぼくは、どのような気持ちでしょうか。

【広げる問い】

ぼくは、家に帰って美さんが「なかよしだから、な
お教えられないよ。」と言ったことが気になって考
え込みました。どのようなことに気付いたのでしょ
うか。
考え込んで、「ぼく」が気付いたことを吹き出しに書
いて表現させる。

【深める問い①】

その次の日、美さんに会ったぼくは、美さんとどの
ようなことを話したのでしょうか。

次の日の実と「ぼく」の会話を役割演技で表現させ
る。(実・教師 「ぼく」・児童)

【深める問い②】

二人は、本当の友達と言えるでしょうか。本当の友
達とは、どのような友達でしょうか。

本当の友達とは、友達のことを思って伝えたり、そ
れを受け入れたりする関係

○見つめる

「本当の友達なら、こんなとき、どのようなことを思っ
て、注意するのかな。」

本時の学習を通して、今までの自分を振り返り、こ
れから、本当の友達になるためにどのようにしてい
きたいかを考えましょう。

○成果と課題・改善策 (◎成果, ●課題, →改善策)

【つかむ段階】

◎事前アンケートを活用したことで、自分事としてめあてをつかませることができた。

【見出す段階】

〈広げる問い〉

◎実の対応に腹を立てた「ぼく」の気持ちを考えさせた後に、「広げる問い」で家に帰って考え込んだ「ぼく」の気持ちを考えさせたことで、「ぼく」の気持ちの変化をとらえさせることができた。

●「広げる問い」での交流が少なかったため、子どもたちの考えを十分に引き出すことができなかった。
→「深める問い」につなげるために、「広げる問い」でペア交流やグループ交流を位置付け、子ども同士をつなぎ、考えを広げることができるようにする。

〈深める問い〉

◎「深める問い①」で、次の日の2人の会話を仮定的に考えさせたことで、2人は友達のことを思って伝えたり、それを受け入れたりする本当の友達の関係になれたことに気付かせることができた。

●「深める問い②」で本当の友達はどうな友達なのかを子どもの思考に沿わない形で問いかけてしまったことで、子どもたちが戸惑い、明確に価値をとらえることができなかった。

→「深める問い②」の前に、「深める問い①」で気付かせた2人の双方向の友達関係を再確認するための補助発問を位置付け、価値把握につなげることができるようにする。

〈表現活動〉

◎役割演技を通して自分の考えを動作化して表したことは、自分の考えと友達のことを比べ、考えを深める上で有効だった。

【見つめる段階】

◎アンケートをもとに、本当の友達関係を見直す具体的な場面を提示することで、今後の実践意欲につなげることができた。

○表現活動、対話の様子

【考えをノートに書く】



【役割演技】

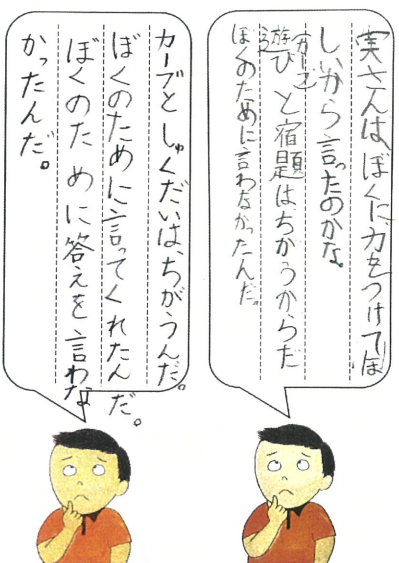


【全体交流】



○子どものノート

【広げる】



【深める】



【価値理解～見つめる】

